

今こそ本物の労働運動を復権させよう

日刊 動労千葉

82,3,24

No. 1000

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・八巻)品五二七二〇七

『日刊動労千葉』1000号』発刊 にあたって 国鉄千葉動力車労働組合 教 宣 部 長 片岡一博

※※※※※

全組合員の皆さん！ 全国の闘う仲間の皆さん！
わが動労千葉の機関紙『日刊動労千葉』は、本日一〇〇〇号発刊を達成した。
一九七九年一月八日、第一号を発刊して以来、三年有余、一日も欠かさず発行し続け、一三〇〇組合員はもとより、定期購読者の皆さんをはじめ全国の闘う仲間の皆さんに送り届けてきた。

※※※※※

「本物とニセ物」が区分けされる
八〇年代

この三年間は、短いようで実に長かった。
八〇年代は、「本物」と「ニセ物」がはっきりと区分けされる時代である。われわれは、中間をゆるさない厳しい激動の時代に生きていたのだ。

われわれは、今こそ本物の労働運動の復権をかちとり、一切の「ニセ物」を打倒・一掃し、全国の闘う仲間との真の連帯と共闘をかちとり、再び帝国主義戦争へと全人民をかちとることで延命をはかろうとする日帝・支配階級打倒にむけて闘い抜こうではないか。

今後共、わが動労千葉は闘いの真只中で、いきいきとした『日刊動労千葉』を闘う紙の弾丸として発刊し続けるであらう。

正義をつらぬき、原則を守って、
闘いぬいた三年間

全組合員の皆さん！ 全国の闘う仲間の皆さん！
三年前の一九七九年三月三〇日、わが動労千葉一三〇〇組合員は、ある意味では極めて無謀にも、しかし闘う労働組合の原則を守るため、動労「本部」からの分離・独立をかちとった。

そして「八〇年代に通用する自前の労働運動の構築」をめざし、歴史的な八一・三ジェット闘争を頂点とする様々な闘いを闘い抜き、大きな飛躍をかちとってきた。

今日、「6・12デッチ上げ告訴」に見られる警察労働運動化、「働こう運動」路線に見られる右翼産業報国会化の動労「本部」の姿を見ると、われわれの飛躍をかけた闘いが全く正義の闘いであり、正当であったことに自信と確信をもつことが出来る。

七〇年代から八〇年代にかけて戦後高度成長の「神話」が全て崩れ去り、これまで口先きでは「戦闘的階級的労働運動」などといった動労「本部」革マル反動分子の反動的本性がますます明らかとなつていく。

今日のすさまじい国鉄労働運動解体攻撃の激化の前に、今や動労「本部」革マル・松崎一派は国鉄労働者が長年にわたる多くの犠牲と苦しい闘いによつてかちとってきた数々の職場既得権と職場抵抗闘争の一切の権利を放棄し、返上し、攻鉄当局に屈服することを公然と「指令」するに至つてゐる。

情勢が厳しければ厳しいほど労働組合の原点を見すえ、原則を守つて闘い抜かなければならぬのだ。このことは

三年余にわたる今日までのわが動労千葉の闘いの歴史が示しているではないか。

3・28三里塚に総決起し、三里塚闘争と国鉄労働運動の爆発をかちとろう

動労「本部」革マル・松崎一派は、自らの未来を「国鉄を守り、国家を守る」ことの中に見出し出している。

しかし、われわれの未来は、核戦争と侵略・反動政策で延命をはかる日帝・支配階級に対決する「本物の労働運動」の中にあるのだ。

この闘いこそ、三里塚闘争と国鉄労働運動の爆発にかかっているのだ。

三里塚芝山連合空港反対同盟は、政府・公団の「話し合い路線」による同盟解体攻撃をもの見事に粉碎し、二期着工粉碎・空港廃港、一切の話し合い拒否の基本路線を堅持し闘い抜いている。

一方、国鉄労働者も、動労「本部」革マル松崎一派の裏切りと暴力支配に抗し、民同の無力化をのりこえ、全国各地で新たな胎動を開始しつつある。

3・28三里塚現地闘争の爆発こそは、この一切の出発点である。

3・28三里塚に総決起しよう。

西独・フランクフルト
空港拡張反対運動
代表団との交流・連帯
集会に参加しよう！

「日本の労働運動、特に動労千葉の労働者の職場の闘いに触れてみたい」



日独両政府の妨害により来日が遅れていた同代表団は去る三月二〇日に来日以降、二一日広島反核大集会、各地の住民集会に参加し、三月二八日の三里塚全国集会に結集しようとしている。その忙しいさ中、同代表団の日本労働運動との生きた交流を、との強い要望で、動労千葉との職場交流がもたれることになりました。ふるって参加して下さい。

3/25
12時、16時・於津田沼電車区講習室
16時、19時・於動力車会館